

二〇一七年三月一七日

春愁や震禍追悼サイレンに
吸い物に菜の花浮かべ古希祝ふ
大荷物担ぎ帰宅や卒業子
春光を返す蕨や漁師町
もの芽いま玉の日差しにほぐれそむ

二〇一七年三月一六日

反抗の子も涙して卒業す
春日燦木造校舎長廊下
つくしんぼ袴とりつつ長話

二〇一七年三月一五日

青き踏む砲台跡へ続く道
ルノワールの女の視線暖し
日を弾く川面に触るる柳の芽

二〇一七年三月一四日

池の面に漣駆けて風光る
残り鴨影絵となりて池昏るる

二〇一七年三月一三日

はるかなる銀嶺日矢に煌めける
石像の羊ちらばる春の丘
車窓いま菜の花越しに日本海
春宵の空のどこかが明るくて

さつき

こすもす

こすもす

三刀

満天

まゆ

やよい

智恵子

なつき

なおこ

明日香

さつき

明日香

隆松

なおこ

こすもす

菜々

代々の女系家族や古雛

引き波に揺るる棧橋鳥帰る

のどけしや金の御座船堀めぐる

野焼あと墨絵の景となりにけり

二〇一七年三月二日

芽柳やレンガ造りの倉並ぶ

落椿踏むまじとしてたたら踏む

春雨の晴れて珠なす軒滴

揚げ雲雀点となるまで声降らす

二〇一七年三月一日

春夕焼うち寄す波に日のかけら

踏青や飴と句帳を供として

いかなごのくの字しの字に炊きあがる

なほ残るボタ山の果鳥雲に

さつき

なつき

菜々

まゆ

豆狸

やよい

まゆ

菜々

なつき

まゆ

たか子

豆狸

毎日句会みのる選・二〇一七年三月一九日